

データが語る深圳の素顔⑥：若さと移住者文化が変革の活力源

1980年、中国で初めて経済特区の指定を受けたとき深圳市は人口3万人程度の漁村だった。1987年に中国当局から工場進出先の候補地として当社に紹介された深圳の土地は、ところどころに水たまりができアヒルが泳いでいるような湿地帯だった（6月15日宮越社長インタビュー④参照）。そんな深圳市が改革開放政策の成功で中国きっての高成長都市になった。30年後には中国の4大都市の1つにまで膨張した。中国各地、香港、マカオなど近隣地域はから働き手が集まった。起業機会を求める人材は国内だけでなく世界各地からもやってきた。だから比較的みんな若い。いわばあちこちからよそ者がどっと流れ込んできた。みんな移住者だから「よそ者」の感覚がない。これが多様性、開放性などを尊重する独特の文化を育くんだといわれる。若さと移住者文化がイノベーションを生み出す活力源になっている。

深圳市の人口構造・環境

人口構造

- 人口の平均年齢は **32.5 歳** であり、中国で最も若い都市といわれる。
- 65 歳以上人口はわずか **1.8%** である。
（北京：8.7%、上海：10.1%、広州：6.6%）
- 15-65 歳の **労働人口比率は 88.4%** で中国 1 位。
（中国平均：74.5%）
- 常住人口のうち、**95%は他地域出身者** である。
出身地もバラバラの移住者が相互に認め合い「深圳に住めばみんな深圳人」の意識と感覚を育てた。



中国平安保険金融センター
(660メートル)



小梅沙海浜公園

環境

- 2016 年、環境空気品質 AQI の優良日数は 348 日である。(上海：281 日、広州：282 日、北京：未公開)



福田区(開発エリア)